

# 河川水辺の国勢調査(基本調査)と 他省庁等の自然環境調査との比較

# 1. 比較対象とした自然環境調査

	調査実施主体	調査名	目的
行政 主体	国土交通省(河川)	河川水辺の国勢調査 (基本調査)	【河川版】河川環境の整備と保全を適切に推進 【ダム湖版】生物の良好な生息・生育環境の保全を念頭においた適切なダム管理
	国土交通省(砂防)	水と緑の溪流づくり調査	自然と地域になじんだ水と緑の溪流づくり
	環境省	自然環境保全基礎調査	自然環境保全の施策を推進するための基礎資料
		モニタリングサイト1000	生態系の変化をとらえて、適切な自然環境保全施策を推進
	農林水産省・環境省	田んぼの生きもの調査	生態系保全型の農業農村整備事業推進、水田生態系の保全に関する意識向上・生態系保全機能の理解促進
	林野庁	森林生態系多様性基礎調査	地域森林計画及び国有林の地域別の森林計画を定めるための客観的資料
		保護林モニタリング調査	保護林の状況を的確に把握し、調査結果を蓄積することで、きめ細やかな保全・管理を推進
		緑の回廊調査	野生動植物のデータを蓄積し、緑の回廊の有効性を検証
	民間 主体	(財)日本野鳥の会	鳥の生息環境モニタリング調査
(財)日本自然保護協会		自然しらべ	みんなでおこなう、日本の自然の「定期健康診断」

# 2. 調査対象種・調査方法

：全種を対象に調査  
 ：一部の種を対象に調査または一部の調査項目のみ調査

調査名	魚類	底生	プラ	植物	鳥類	両生・爬虫	哺乳	昆虫	基図
河川水辺の国勢調査 (基本調査)	捕獲	定量調査 定性調査	採水法 ネット法	目視観察	スポットセンサス、 ラインセンサス、 定点センサス	フィールドサイン、捕獲、 トラップ法、自動撮影		任意採集、ラ イトトラップ、 ピットフォール トラップ	植生図、群 落組成、河 川調査等
水と緑の溪流づくり調査	捕獲				ラインセンサス	フィールドサイン、捕獲			群落組成
自然環境保全基礎調査	聞き取り (メッシュ単位) 捕獲(H5以降 なし)				聞き取り (メッシュ単位)	聞き取り(メッシュ単位)		トンボ、チョウ、 セミ等	植生図 1/2.5万
モニタリングサイト1000		定量調査 定性調査	採水法 ネット法	目視観察	スポットセンサス、 ラインセンサス	カエル卵 塊数計数	自動撮影	ホタル、チョウ 等	
田んぼの生きもの調査	捕獲	捕獲(水生昆 虫)、目視(カ ワヒバリガイ)		目視観察(ボ タンウキク サ、ホテイア オイ)		カエル捕 獲)			
森林生態系多様性基礎調査									下層植生
保護林モニタリング調査				目視観察	ラインセンサス、 定点観察	自動撮影、直接観察、 痕跡観察		ライントランセ クト法	群落組成
緑の回廊調査					ラインセンサス、 定点観察	ワナ、自動撮影、直接 観察、痕跡観察、巣箱			
鳥の生息環境モニタリング調 査					ラインセンサス				
自然しらべ				目視観察(ボ タンウキク サ等4種)		目視観察 (カメ)		目視観察(カ マキリ、セミ等	3

# 3. 調査サイクル

- 5年サイクルで実施されている調査が多い。
- 自然環境保全基礎調査における河川調査のうち、魚類相に関する調査は平成5年以降実施されていない。また、改変状況等の調査についても平成11年以降実施されていない。

調査名	平成																											調査サイクル		
	~1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27			
河川水辺の国勢調査	魚類等																												5年	
	植物等																													10年
水と緑の溪流づくり調査																													… 頻度任意 …	マニュアルに規定なし
自然環境保全基礎調査	河川調査(魚類)																												H5以降なし	
	河川調査(改変状況等)																												概ね5年(H11以降なし)	
	他調査																												概ね5年	
モニタリングサイト1000																													毎年	
田んぼの生きもの調査																													毎年	
森林生態系多様性基礎調査																													5年	
保護林モニタリング																													5年	
緑の回廊調査																													… 当面継続実施 …	マニュアルに規定なし
鳥の生息環境モニタリング調査																													5年	
自然しらべ																													毎年 (川の調査は5年)	

- : 河川水辺の国勢調査と調査範囲が重複する調査、
- : 河川水辺の国勢調査と調査範囲が一部重複する可能性のある調査、
- : 河川水辺の国勢調査と調査範囲が重複しない調査

## 4. 調査範囲(1)

➤自然環境保全基礎調査は、河川水辺の国勢調査と重複しているが、メッシュ単位である。

調査名	調査範囲
河川水辺の国勢調査 (基本調査)	<b>【河川版】1級河川・2級河川(ダム区間除く)</b> <b>【ダム湖版】直轄・水機構管理ダム湖及び周辺(約500m)</b>
水と緑の溪流づくり調査	砂防事業対象河川・溪流
自然環境保全基礎調査	植生調査(第2回～第5回:1/5万植生図、第6回～:1/2.5万植生図) 動物分布調査 哺乳類(第2回と第6回:約5kmメッシュ、第3回～第5回:1kmメッシュ)、 鳥類(第2回と第6回:1/2.5万地形図内に全長3kmの調査ルートを設定、第3回: 1kmメッシュ、第4回:1/5万地形図上に集団ねぐら位置を記録)、 両生類・爬虫類(第2回:1/20万図に調査地点を表示、第3回～第5回:1kmメ ッシュ)、 淡水魚類(第2回:調査対象河川にて現地調査、第3回～第5回:1kmメッシュ)、 昆虫類(第3回～第5回:1kmメッシュ)、第2回:1/20万図に調査地点を表示 河川調査(第2回～第3回と第5回:1級河川の幹線及び沖縄県の浦内川の計 113河川、第4回:主な二級河川の幹線及び一級河川の支川153河川)
モニタリングサイト1000	日本を代表する様々なタイプの生態系(河川は対象外)

**赤太字** : 主に河川水辺の国勢調査【河川版】と調査範囲が重複する可能性あり

**青太字** : 主に河川水辺の国勢調査【ダム湖版】と調査範囲が重複する可能性あり

## 4. 調査範囲(2)

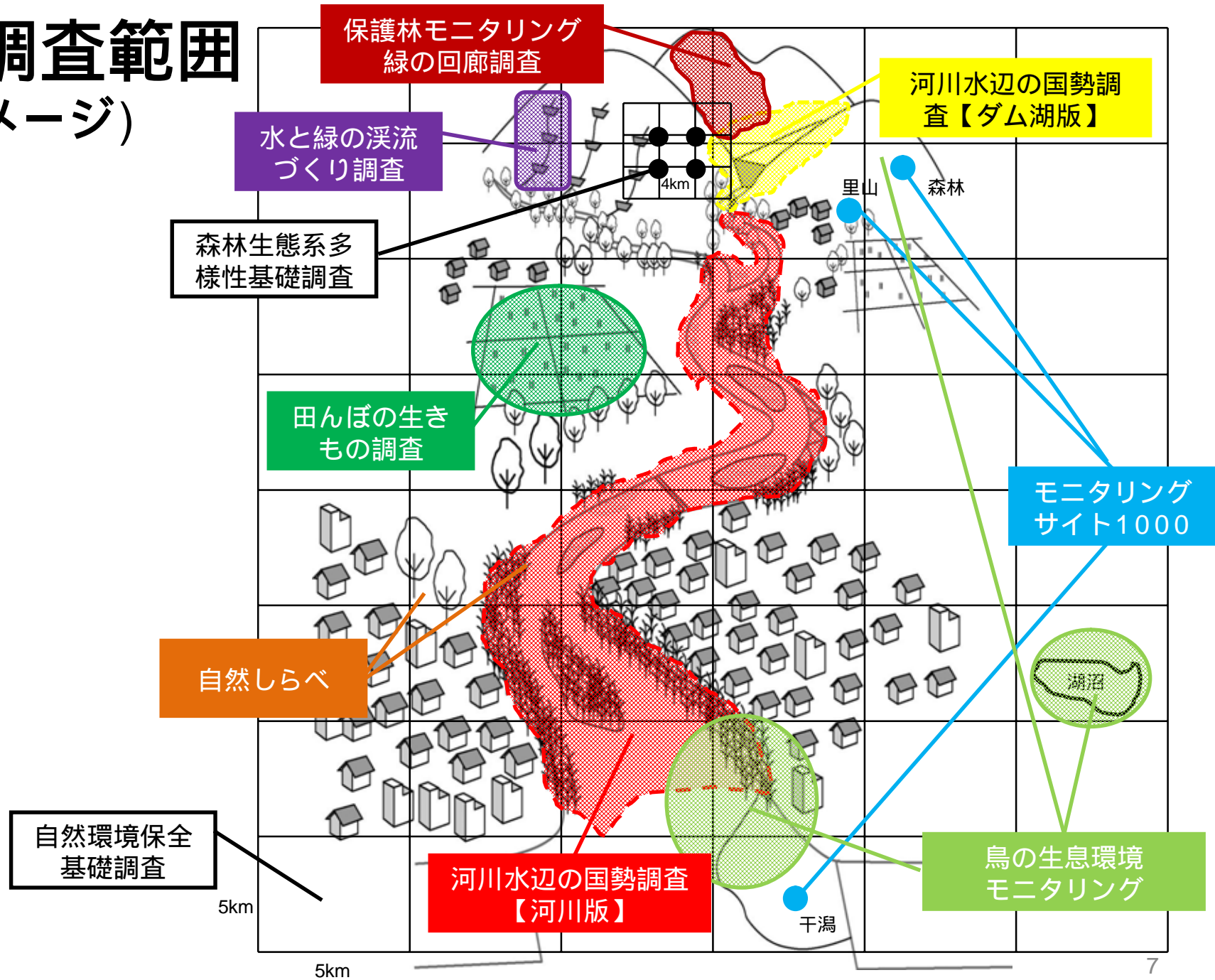
➤森林生態系多様性基礎調査、鳥の生息環境モニタリング調査等は、河川水辺の国勢調査と重複する可能性がある。

調査名	調査範囲
田んぼの生きもの調査	水路、ため池、水田、農道・畦畔
森林生態系多様性基礎調査	森林(4km 間隔の格子線の交点)
保護林モニタリング調査	地域管理経営計画により設定された保護林内
緑の回廊調査	2つの保護林とそれをつなぐ緑の回廊
鳥の生息環境モニタリング調査	森林と草原、 <b>干潟や河原、湖沼や河川</b>
自然しらべ	<b>川</b> 、海、さまざまな生きものなど

**赤太字**：主に河川水辺の国勢調査【河川版】と調査範囲が重複する可能性あり

**青太字**：主に河川水辺の国勢調査【ダム湖版】と調査範囲が重複する可能性あり

# 4. 調査範囲 (イメージ)



# 5. 調査実施者

- 民間コンサルタント会社に委託される調査、 NGO・NPO、専門家等が実施する調査、 小中学生が参加して実施する調査がある。

調査名	調査実施者
河川水辺の国勢調査(基本調査)	民間コンサルタント会社
水と緑の溪流づくり調査	民間コンサルタント会社
自然環境保全基礎調査	専門家、NGO・NPO及び民間のコンサルタント等
モニタリングサイト1000	大学、研究機関、専門家、NGO・NPO、ボランティア等
田んぼの生きもの調査	農林水産省の出先機関、都道府県や市町村、土地改良事業団体連合会、土地改良区、小学校、地域住民等
森林生態系多様性基礎調査	民間コンサルタント会社
保護林モニタリング調査	民間のコンサルタント会社等
緑の回廊調査	NGO、ボランティア、専門家、民間コンサルタント会社等
鳥の生息環境モニタリング調査	野鳥の会会員
自然しらべ	調査に参加したい市民 (小中学生から自然観察指導員、元大学教員まで)